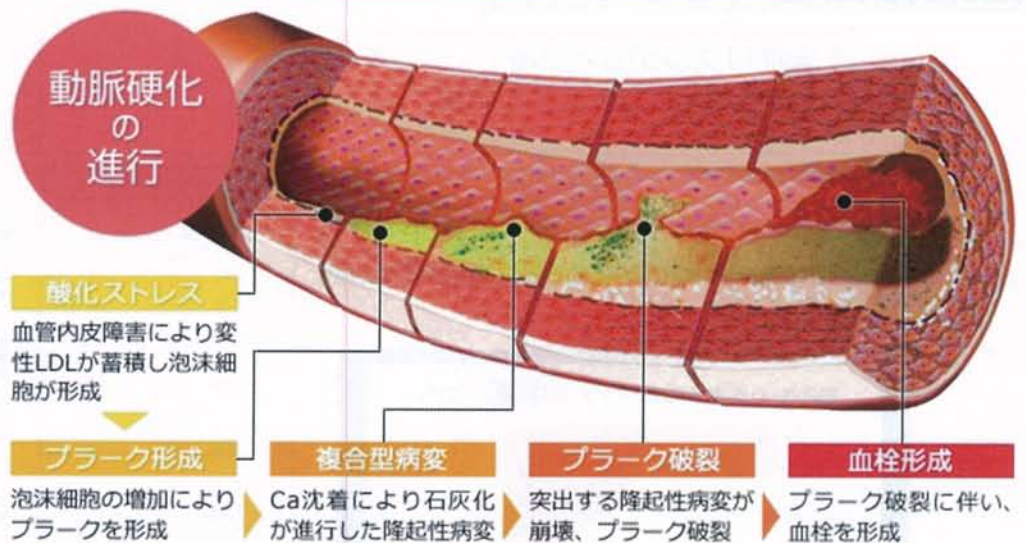


# 脳梗塞・心筋梗塞が心配な方に

## このような方にお勧めです

- **血縁家族に脳梗塞・心筋梗塞にかかった人がいらっしゃる方**
- **高血圧、脂質異常症、糖尿病にかかっており、動脈硬化が気になる方**
- **40歳以上の方**

動脈硬化の進行から  
将来の脳梗塞、  
心筋梗塞の発症までを  
予測できる  
**新しい血液検査**です。



## ロックスインデックス(LOX-index)とは

動脈硬化は自覚症状がないまま進行し、ある日突然脳梗塞・心筋梗塞を発症してしまう怖い病気です。ロックスインデックスは、血液中の酸化変性LDLとsLOX-1を検査することで将来の脳梗塞・心筋梗塞の発症リスクを評価する血液検査です。検査結果で、脳梗塞・心筋梗塞のリスクがあれば予防対策を取って、早い段階からリスク回避していただけます。

- 採血だけの簡単な検査
- 健診・人間/ドックのオプション検査として受診可能
- 検査価格：13,000 円 (税別)

※ 妊娠中、出産後、体調不良の場合、検査数値が高く出る可能性があるため、検査できません。

※ コレステロールを下げるお薬を服用されている方は、検査数値が低く出る可能性がございます。

# ロックスインデックスが高い方は

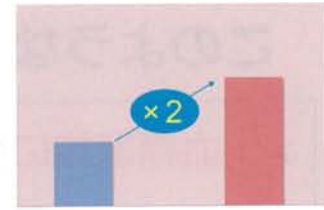
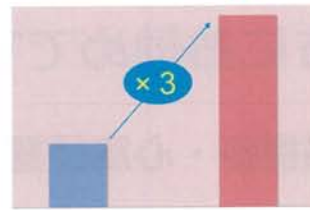
動脈硬化が進行すると、脳梗塞・心筋梗塞が将来的に発症するリスクが高まります。酸化変性LDL、LOX-1の増加を促してしまう要因として、生活習慣（喫煙、過食、過度の飲酒等）、ストレス、運動不足等がありますので、ロックスインデックスが高い方は、予防対策を始めましょう。

<脳梗塞発症との関係>

<心筋梗塞発症との関係>

LOX-index 値が高いと発症率が3倍

LOX-index 値が高いと発症率が2倍



引用: Clinical Chemistry 2010; v.56, p.550-558.

## 結果報告書 (サンプル)

発症リスクのレベルを分かりやすくグラフで記載。

★ 氏名 demo demo    ★ 受診日 2012/9/20  
★ カルテID    ★ 性別 男性    ★ 年齢 63

総合評価グラフ

脳梗塞・心筋梗塞発症リスクは **中高** です。

★ 今回の結果  
★ 前回の結果  
★ 前々回の結果

総合評価コメント

リスクの高い状態です。高血圧、高血糖、肥満、喫煙など他の動脈硬化リスクを持っている人は人間ドックや検診などで医師に相談してください。sLOX-1は炎症で上昇することが知られているため、生活習慣病や慢性疾患などによる炎症の可能性も否定できません。sLOX-1が高い状態でLABが高くになると更にリスクが高まるため、LABを上昇させないようにすることが重要です。

LAB上昇の原因である活性酸素の発生を抑えるには、食生活の改善が第一です。また、喫煙、過度の飲酒、睡眠不足、精神的ストレスなど活性酸素の発生原因となる生活習慣の改善が重要です。

検査結果に対する総合的なコメントや改善の方向性を提案。

個別時系列データ

sLOX-1

解説  
LOX-1(Lectin-like oxidized LDL receptor-1)は、血管壁に存在する異物を認識する部分で血液中から取り除く働きをしており、血管壁に障害が起こるとLOX-1産生が促進されます。LOX-1は、血管壁から切り離され血液中に浮遊するものをsLOX-1(soluble LOX-1)と言います。sLOX-1は、血管炎症の指標として利用されます。今回の検査結果は、血中のsLOX-1が非常に高い状態です。動脈硬化の進行が推察されます。血中に酸化LDLなどに代表される動脈硬化の原因物質が多く存在し、血管の炎症が進行している可能性が高いと考えられます。

一度、脈波伝播速度 (PWV、CAVI) や頸動脈エコーなどの検査で動脈硬化の進行度のチェックをお薦め致します。その結果を併せて、適切な改善指導を受けられることをお薦め致します。

LAB

解説  
LAB (LOX-1 ligand containing ApoB) は、LOX-1と結合する「LDLコレステロール (以FLDLCL) の総称であり、一般的には「酸化LDL」を指します。「酸化LDL」は、LDL-Cの一部が活性酸素などにより酸化された状態のもので、サビ付いているということです。「リンゴの切り口が茶色く変色する」、「揚げ物が黒く変色する」などと同じ事です。LDL-Cは、コレステロールを体の諸部位まで運ぶ役割を担っていますが、サビ付いたLDL-Cは動脈硬化を引き起こす原因となります。これが、LDLが「悪玉」と呼ばれる本物の理由です。

今回の検査結果では、動脈硬化の原因であるLABが高い状態です。これは、体内における酸化が進んでいる状態と考えられ、カウダがサビ付いている状態を指します。食を中心とした生活習慣の改善が必要です。

LOX-index

解説  
「LOX-index」は、脳梗塞・心筋梗塞発症リスクを評価する最新の指標です。日本国内で行われた約2,300名を約10年追跡研究した結果により、新たな知見が加わりました。その結果から、sLOX-1 (可溶性LOX-1) : 血中に放出されたLOX-1) とLAB (LOX-1 ligand containing ApoB) から得られる乗算値が、今後10年以内に脳梗塞・心筋梗塞発症率に大きく関与する事がわかりました。脳梗塞発症率で約3倍、心筋梗塞発症率で約2倍となり、これら2つの疾患のリスク評価検査としては、唯一の検査です。

今回の検査結果では、低リスクのラインを大幅に超えています。今後の加齢などのリスク要素を考えると高リスク群に移行する可能性がかなり高いと考えられるため、生活習慣の改善などでsLOX-1とLABを下げる必要性があります。

過去の検査結果からの推移も一覧できる解説付き。

※ 結果報告は、21日～28日でお届けします。

ご予約・検査に関する御問合せ

KKR北陸病院健康管理センター

TEL : 076-243-6888